

第1回松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピックやさシティ
おもてなシティ推進会議 議事録

1. 日 時 平成27年5月29日（金）午前10時～
2. 場 所 松戸市役所 新館5階 市民サロン
3. 出席者 別紙のとおり（委員11名全員出席）
4. 傍聴者 なし（傍聴希望者なし）
5. 会議経過
 - (1) 開会（10時30分）
 - (2) 会長、副会長選出
薄葉委員が会長に長江委員、副会長に池邊委員を推薦
全員一致で長江委員、池邊委員を選出
会長、副会長挨拶
 - (3) 講演会
「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に
向けて」
文部科学省 スポーツ・青少年局競技スポーツ課
中村専門官
 - (4) 確認事項
会議の公開について
①委員氏名の公表 ②会議の公開 →了承
議事録署名人の確認
委員名簿順により、池邊委員に確定
 - (5) 議事
議題1 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック
やさシティおもてなシティ推進のための
「基本方針」について（報告）
議題2 松戸市2020年東京オリンピック・パラリンピック
やさシティおもてなシティ推進行動計画の策
定に向けて（6. 議事概要 参照）
議題3 今後の予定について

6. 議事概要

○長江会長 「松戸市 2020 年東京オリンピック・パラリンピックやきシティおもてなし推進行動計画の策定に向けて」各委員の皆様自由に発言していただきたいと思ひます。尾崎委員の方からよろしくお願ひします。

○尾崎委員 方針としては非常に素晴らしいものができたと思ひます。しっかり連携を取って、実現に向けた行動プランに起用できればと思ひます。よろしくお願ひします。

○長江会長 ありがとうございます。今お話にあったような連携とか実現に向けてというような力強いお言葉をいただきまして、ありがとうございます。観光の側面から杉浦委員、お願ひいたします。

○杉浦委員 はい、ぜひこの基本方針に基づいて進めて、いいおもてなしになるよう観光協会としても全面的に応援したいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

○長江会長 ありがとうございます。それではスポーツ関係で、ロンドンパラリンピックアーチェリー日本代表ということで斎藤委員よろしくお願ひ致します。

○斎藤委員 どういう力になれるかわからないんですけども、自分なりに協力できるよう努力したいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

○長江会長 ありがとうございます。先程の推進計画の中にもパラリンピックその他盛り込んで、ちゃんと子どもたちにも伝えていくという部分でご意見をまた今後とも宜しくお願ひします。それでは松戸市においてなんといつても国際交流、大変なお役を引き受けていただいております飯沼委員お願ひ致します。

○飯沼委員 国際交流協会の理事長ということで出させていただきます。45年間松戸の国際交流を見ておりますけれども、ボランティアの方はたくさんいい方が出てくるんですが、なかなか裾野が広がっていくことが難しい状況です。オリンピックは国際交流にとって最高の教本であり、また体験できる場所だと思ひています。外国の方も 100 カ国以上から 1 万人以上松戸市におりますので、現在ボランティアで活躍している通訳あるいはその他ホストファミリーの方々、あるいは海外からたくさん来ている方の中で国際交流協会から国際文化大使ということで委嘱していただきまして、自分の国の文化を紹介していただいています。そういう方も含めていろいろな形で国際交流を深める、今までの体験が少しでも広がっていくようになればいいのかなと思ひます。

あともう一点は、教育関係は非常に大きな影響があると思ひます。私は幼児教育の関係をしているんですが、ご存知のとおり幼児教育も文部科学省の管轄で、今までは小学校が教育の第一歩だったんですけども、幼児教育も今度は小学校と同じように教育の第一歩は幼児教育からということで、子ども・子育て会

議でも幼児・乳幼児から18歳までの教育をどういうふうにしていくかということもみんなで話し合いをしていったところでした。そういう意味で乳幼児から生涯学習まで、松戸の国際化を含めて、教材とかオリンピック用のお知らせとかを作ると思っていますので、そういう点も含めて、これからの国際協力のご提案をいただければ幸いです。

○長江会長 ありがとうございます。それでは松戸市の体育協会の会長という立場でご参加いただいております、岡本委員よろしく申し上げます。

○岡本委員 新聞報道で知ったんですけども、山武市が事前キャンプをすることに決まったと。松戸市としても何か一つキャンプに来てくれるような国が出てくるように願っているところでもあります。また、スポーツ・フォー・トゥモローに最初に手を挙げて、登録してもらおうといいかなという感じがします。

○長江会長 ありがとうございます。それでは経済ということで松戸商工会議所の専務理事、薄葉委員ご発言よろしく申し上げます。

○薄葉委員 松戸市の経済活性化ということで、私たち商店街とか経済団体、そして各お店等を支援するというで接触しています。これからオリンピックに向けて、今でも外国人の方はいっぱいいらっしゃいますけれども、もっとたくさん増えるわけですね。そういう視点で店主の方々とお話していないんです。新たな視点で、外国の方が来ても対応できるような企業力、外国の方との接し方も勉強しなければならないのかなと。ここには書かれていないけれども原料となる第一次産業である農業と商工会議所も連携をとってやっていかなければならないと思います。

○長江委員 ありがとうございます。それでは、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社太下さん、よろしく申し上げます。

○太下委員 文化政策を研究しています、太下です。先程文部科学省の中村専門監から講演いただきましたけれども、それを補足するといえますか、おっしゃっていませんでしたことを追加します。まずは近代オリンピックを支えている哲学はオリンピズムというんですけど、これはオリンピック憲章に書かれているんですが、スポーツを文化と教育と融合すると明記されているんですね。実は文化という側面が非常に重視されていて、先程文化プログラムというご紹介もありましたけれども、ロンドンで17万7千件の文化プログラムが実施されたことを受けて、下村文部科学大臣兼オリンピック担当大臣は、日本では20万件の文化プログラムを実施するというふうに言っています。この動きに先行して文化庁と観光庁が包括連携協定というのを結んでいます。なぜ文化庁と観光庁が包括連携協定を結んでいるのかということ、オリンピックの文化プログラムは全国で行われる、これは確実に観光振興につながると、ということで観光庁が働きかけてこの協定が結ばれたということです。実は文化庁さんとしてはオ

オリンピックでは文化プログラムを念頭において国としての新しい文化振興の指針が必要だということで、文化芸術振興基本法というのができて、そこからどんどんローリングで計画を作っているんですが、あえて通常より1年早めて第4次基本方針というのを策定して、実は先週末に閣議決定を受けたんです。そういうことで今、文化プログラムに向けて動き出そうとしているということですので、ぜひ松戸市さんでも検討してほしいというところです。併せて、事前キャンプ誘致についてもお話をさせていただきたいんですが、ぜひキャンプ誘致も実施していただければと思うんですけども、何のためにキャンプを誘致するのかという目的をきちんと明確化されたらいいかと思うんですけども、例えば話題作りであるとか、市民の機運を盛り上げるでも構わないんですが、イベントとしては短期間で終わってしまいます。これが終わった後に、松戸にどういったレガシーが残るかということを中心される必要があるかなと思うんです。そういった意味でいうとキャンプ誘致についても単なる事前キャンプで盛り上げるのではなくて、その国の選手団が来たことがその後の国際交流とか観光とかにつながるというのも一つの考え方なんじゃないかと思うんです。一方で、オリンピックに詳しい早稲田大学の原田先生がおっしゃっていたんですが、例えばロンドン大会で204の国と地域が参加してますけれど、このうちの3分の1以上にあたる74カ国が1回もメダルを取っていないんです。この74のうち、実は日本とも近年結びつきが増えている国があるんです。ミャンマー、ラオス、カンボジアなど東アジアの国々が入っているんです。例えば松戸市が市をあげてこういう国々をサポートする、ぜひ事前キャンプに来てください、リラックスしてそこでぜひがんばってください、という活動をできれば、その国の人たちは松戸のことを記憶に刻み込むんじゃないんですかね。オリンピックが終わったとしても、その国とのつながりがずっと続くんじゃないかと思います。今のは一つの例ですけども、何かキャンプを誘致することも、単なる話題作りではなく、その後のレガシーをにらんで、戦略的にやっていかれるのがいいんじゃないかというふうに思います。もう一個お話をさせていただくと、実は私、駅前のまちづくりの委員会の方にも参加させていただいておまして、そこでも申し上げたことなんですけれども、実は松戸は主に東北方面だと思うんですけども、バスツアーの発着場に最近なりつつあるんです。松戸に特に成田からなんて近いですから、成田からのバス便をきちんと作って、ここを実質的な日本観光のターミナルにしてしまえばいいのではないかと思います。成田からきたバスにそのままずっと乗りかえて行かれちゃうと単なる通過点になってしまうんですが、待ち時間を含めて1、2時間とかタイムラグができるようなタイムスケジュールに調整して、その間ショートトリップと言いますか短い観光ツアーをいっぱい造成したりする。あとは、駅前の商

店街を丸ごと免税商店街にすればいいと思うんですけど、そうすればそもそも話題性も出ますし。そういった形でここが新しいターミナルになるような形の観光振興もオリンピックに向けてやっていったらいいのではないかと。私が申し上げるまでもなく、もともとこの松戸という町は松戸宿として発展したわけですから、本来の宿場町を再興する、ルネッサンスみたいな形で新たなグローバルな形での松戸宿を作る、というのを一連のオリンピックに向けての計画に組み込むのがいいんじゃないかと思います。

○長江会長 ありがとうございます。それでは市内大学の中で流通経済大学スポーツ健康科学部西機先生、ご意見よろしくお願ひします。

○西機委員 流通経済大学は新松戸と茨城の龍ヶ崎に2つキャンパスがありまして、スポーツの学部は残念ながら龍ヶ崎だけなんです。新松戸の方は日本通運の日通学園ですから、経済、流通、経営、あとは社会学部の方で、福祉とか国際観光学科というのもございますので、新松戸の学生たちが先程からお話があるようなボランティアだとか、留学生もいますので、活躍できるような取組みができればなというふうに考えています。あとはキャンパス自体は龍ヶ崎ですけど、スポーツの方が、今年の春も野球が優勝しまして、サッカーも昨年二冠をとったり、ラグビーも強いということで、スポーツのアスリートがたくさん龍ヶ崎にはいます。実際こちらのキャンパスに来ることはないんですけども、そういったリソースもありますので、キャンプ誘致となったときにはそういった対戦相手とかサポートするようなスタッフもそうなんですけれども、ノウハウに関しては教員や学生が何らかの形で関与できるような取組みができればなというふうに考えています。私もずっとラグビーの指導をしまして、実際日本ラグビー協会の方、それからラグビーワールドカップの組織委員会のレガシーコーディネーターということでレガシー担当をさせていただいています。2019年のラグビーワールドカップでは1ヶ月半の期間、たくさんのお客の方がいらっしやって、過去の大会でいうと平均3週間滞在すると。だから試合の間は当然時間がありますので、何らかの形で観光なりをされるということで、そういった海外からいらっしやった方を招けるような取組みというのも前年に必要なんだろうなと思います。その時に事前キャンプもそうなんですけれども、2020年に呼ぼうと思うとその前に取組みがないと、その時に初めてだと間違いなく事前キャンプはやりませんので、使い勝手がわかっている、どういうところか知っているという時に初めてあるので、その手前の5年間の取組みの変化が2020年以降のレガシーにつながっていくところだと思いますので、先は見るとは思いますが、この5年間で変えるところを変えないと、その後残らないというのがまさに今開催都市とレガシーの作り方というのをいろいろと議論しているものですから、通過点、手前、その先というのをどう結びつけ

て計画するかというのは非常に難しい部分だと思います。最近レガシーというのはハードというよりもソフトの面が大事にされているところだと思いますので、正直言うと、スポーツ施設や宿泊施設を見るとキャンプ誘致というのが非常に難しいところがあるなと私の目からは感じています。ただ、逆にそれをチャンスと捉えて、例えばホームステイですとか、あるいは空き家が最近すごく問題になっていると思うんですけども、松戸もどういった状況かは把握していませんが、そういったところの活用も含めておもてなし、人を迎え入れるような体制をハードでなくソフトでできる、それができると長続きできる大事な要因を作れるんじゃないかなと思います。

○長江会長 ありがとうございます。日本大学松戸歯学部の橋口委員、よろしくお願ひします。

○橋口委員 日本大学の橋口です。4大学の中で唯一本学が医科・歯科、という学部を持っておりますので、本学として松戸市の選手強化ですとか、誘致したところの医科学的なサポートといったことで本学がお手伝いできることは多々あるのかなと思っています。また、本学は非常に大きい大学でして、松戸歯学部で対応しきれないことも医学部ですとか、他の学部、キャンパスへの依頼を要請してお願いしたりといった体制も検討させていただきたいと思っています。そういったところで歯科の学生のボランティアですとか、若手の医師、歯科医師等のボランティアに興味がある学生、研修医も多くおりますので、そういったところのサポート、ご支援もさせていただけたらなと思っています。育成といったところで様々問題点がございますので、現状の把握と何が必要なのかというのも今後先導させていただければと思っています。私は歯科医師ではなくて、体育の教員で一般体育を教えているんですが、この委員の中でもし何かあるというのであれば、パラリンピック大会の医科学情報サポートということで選手のサポートをしております。斎藤委員と同じタイミングでロンドンへ一緒に行きました。実際にロンドンの話は様々出ておまして、都市型オリンピックという形で非常に注目を浴びたんですが、ロンドンの開催地というのはイーストロンドンといって都心部から少し離れた場所です。日本は超都市型といいますか、本当に都心の真ん中でやるオリンピック・パラリンピックというのは、類を見ないだろうというのは言われています。確かに様々な形のボランティアさんがいたんですが、ボランティアを育成するのは日本では難しいだろうなと。一番懸念しているのが、アルバイトや仕事として雇ってしまいそうな風土が非常に心配。そうするとレガシーが何も残らないだろうなと。どう育成するかというのをこの5年間で作れるかどうか、ラグビーのワールドカップも含めて、事前のところで作れるのかなというのが心配です。ロンドンの時にも選手から口々に聞いたのが、北京大会の時の観客は非常に多かった、

満員だったんだけど、ロンドンの観客は競技を見に来ていたと。北京の時は動員されているとか学校単位で何百人、何万人集める、そうすると観客は満員になるんですが、競技を見てルールを知っているかどうかが大きな違いだったというのを何人もの選手から聞きました。日本はこの5年間でどういったことができるか、そしてその先の24年、28年のオリンピックに向けて日本のオリンピック・パラリンピックの知識がどう育てていけるか検討しながら協力していければと思います。

○長江会長 ありがとうございます。それでは千葉大園芸学部の池邊委員、よろしくをお願いします。

○池邊委員 一つは先ほどお話がありましたコンソーシアムの話なんですけれども、コンソーシアムでこういうパンフレットにもし載るのであれば早めにした方がいいというのと、松戸市さんがこういったオリンピックの担当課を作られたのが日本全国でも早いというのが一つの見物になっていますし、市民の誇りとか機動力にもなると思いますので、大学等の連携も含めて、決定ができるのであればこの委員会の中で決められればという感じがいたします。先程の国際交流とか聖徳さんもそうですけれども、乳幼児から生涯学習までの教材みたいなものという話がありました。先程中村専門官から調査研究事業のみたいなもののご紹介もありましたが、コンソーシアムに入るとともに調査研究にエントリーするといったこと、それがひいては文化プログラムの認定といったことも含めていち早く認めていただけるような流れができないかなというのが一つございます。二つ目はレガシーというお話がありました。レガシーというのが専門家の方々からは共通認識として知られてはいますが、一般市民にはまだまだ言葉として認識されていません。しかし、西機さんもおっしゃっていましたが、レガシーというのがソフトになりつつあるというのは、市民の方にとっては始まる前からレガシー？となるかもしれませんが、レガシーとして何を一般市民の方に残すかといったところを市長さんも入っていただいて、みんなで議論するような場を設けることができるとというのが二つ目でございます。それからもう一つ、バスツアーの話が先程出てきました。私もバスの発着ゾーンみたいになっているなというのは感じているんですけど、一つは今回被災地のことが少し忘れられているという話があります。そうだとすると東北方面のバスツアーも被災地の方々と連携していくのも一つの切り口となっていくのではないかと思います。それから、もう一つは先程農業の話がありました。環境の側面から農業というのは幼児教育からキャンパスプランまで、アメリカではエール大学のような世界の中で有名な大学でも農場をおいて、そこで新入生が農業をやるなんてことも進んでいます。たまたま今回も夏開催ということで松戸の梨も同時期になりますので、松戸の食文化、地産地消

で安全な食を提供するというような切り口で松戸市と農業従事者が協力できればいいのではないのでしょうか。最後に国を絞ってはというお話がありましたが、私もそれに賛成なんですけれども、まだメダルをとっていない国がたくさんあるというお話でしたけれども、それが、ミャンマーとかラオスとかカンボジアであれば例えば事前に留学生を受け入れて、そういった方々を育てる、市民の方々と親睦を深める、その国と今後友好していくといった切り口としてやっていく。松戸市では私共の留学生も温かく迎えていただいておりますけれども、そういうところも留学生の交流とかを市民の方々とやっていただく。空き家というのも海外ではルームシェアみたいなものが割りと当たり前にやられていますので、そういうところでうまく市民の方と、我々の大学の留学生もホストになってやっていけたらと思います。以上です。

○長江会長 ありがとうございます。本当に各委員の方々から素晴らしい発言をいただいておりますので、この推進会議がより良い形で発展性が持てるな、期待がもてるなど、ありがたいと思います。それからオール松戸、全体でみんなで作るということが未来に向かっていくというような発言が多かったので、本当に素晴らしいというのと、過去の様々な素晴らしい遺産を生かすということから言うと、ホワイトホース市との国際交流とか、先程出ました梨とかいろんな形での、プチ田舎としての東京 24 区というくらい近いのに農地が残っているといった大切な含み資産をいかに生かすかということで、皆さんと商品開発も含めて、素晴らしいお菓子も作れるでしょうし、素敵なお酒も作れるでしょうし、市内の食に関して広がりのあるお店も大企業もありますので、何かオリンピック・パラリンピックでおいでになった方々にお土産も用意できるような街になったらいいなと言うふうに経済効果も狙いたいなと思っております。今後 2 回目、3 回目と会議を進めていくんですけれども、本日はレクチャーが多い中、皆様から一言くらいしか発言をいただけなくて本当に申し訳ございませんでした。

それでは会議を閉じるのですが、報道の方最後まで取材をしていただいたり、松戸市の市役所内部の様々な部署からご参加いただいて長時間に渡りまして聞いていただき、ありがとうございます。先ほど連携と実現という素晴らしい言葉が出てきたと思います。やらされ感ではなく、オール松戸でみんなでこれを取り組んだことが結果としてレガシーとして市民にとって、この町がより良い素晴らしい市に、今も良いんですけれど、より良いものになるよう市内の皆様と連携をとっていけたらと思いますのでよろしくお願い致します。本日は長時間に渡りましてご協力ありがとうございました。閉会とさせていただきます。ありがとうございました。